

<第3回> 担任の先生に聞く、小学生の防犯に関する意識調査

**夏休みを機に、子供の外出時・留守番時の防犯対策を再チェック！**

**子供の「興味をひくもの」「親切心」を利用した声掛けに注意**

**インターネットのリスク教育は、年々低年齢化が進行  
「情報発信時」の注意点について指導している先生が多い**

ALSOK（本社：東京都港区、社長：青山幸恭）は、2004年から社会貢献活動として取り組んでいる出前授業「ALSOKあんしん教室」を実施したクラスの担任教諭を対象に、小学生の防犯や生活に関する記入式アンケート調査を実施し、「第3回 担任の先生に聞く、小学生の防犯に関する意識調査」として、以下の通りにまとめました。

- 調査期間 : 2017年4月1日から2018年3月31日まで  
調査対象 : 「ALSOKあんしん教室」を実施した全国の小学校のクラス担任教諭  
調査方法 : アンケート用紙に記入していただいたものを、ALSOKにて集計  
回答数 : 1,031人

**トピックス**

**児童の防犯意識**

- 約4割の先生が、児童たちの危機意識が高まっていると感じている
- 重大事件の発生した地域ほど危機意識の高まりが顕著に見られる結果に
- 防犯指導の手段は「集会」や「学校だより」が多く、「授業」で教育しているクラスは約3割
- 防犯ブザーの所持率は学年が上がるとともに減少

**児童の被害状況**

- クラスに「危険な目に遭ったことのある児童がいる」と回答した先生は約1割  
→被害を防ぐために、日頃から誘い文句に対応する訓練を！
- 児童への被害が最も多かったのは春から夏にかけて  
→夏休み中も外出時には防犯ブザーを携帯し、日没前に帰宅する約束を！

**留守番時の注意点**

- 10クラスに1クラスの割合で「留守番中に不審な電話や、不審者が来たことがある児童がいる」  
→子供だけで留守番する機会が増える夏休み前には、留守番する前の約束「いいゆだな」など、事前に注意点を親子で確認を！

【参考】 ・留守番する前に注意すべき約束「いいゆだな」  
・子供だけで留守番するときの注意点：不審な訪問者／不審な電話対応のポイント

**インターネットのリスク教育**

- 8割以上の先生が、以前よりインターネットのリスク教育の必要性を感じている
- インターネットリスク教育は、年々低年齢化が進行
- 「情報発信する立場」としての注意点について指導するクラスが多い

【参考】 ・夏休みのインターネット利用時の注意点  
・書き込む前の約束「かきくけこ」と、警戒が必要なメッセージ「あくまがでた」

<本件に関するお問い合わせ>

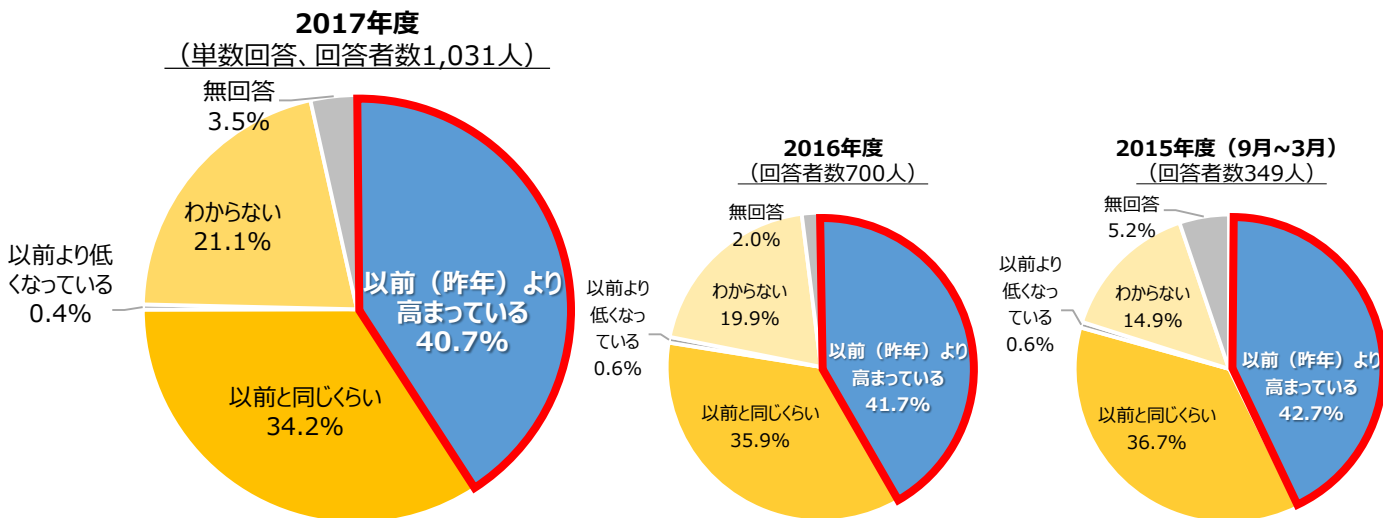
ALSOK 広報部

TEL 03-3478-2310 E-mail koho@alsok.co.jp

## 約4割の先生が、児童たちの危機意識が高まっていると感じている

クラス担任の先生に、現在担当しているクラスの児童たち自身の「安全・安心」への危機意識の変化について聞いたところ、昨年（41.7%）、一昨年（42.7%）とほぼ同率の**40.7%の先生が、児童たちの危機意識が高まっていると感じている**ことがわかりました。

**Q. 以前（昨年）と比較して、児童たち自身の「安全・安心」への危機意識は高まっていると思いますか？**

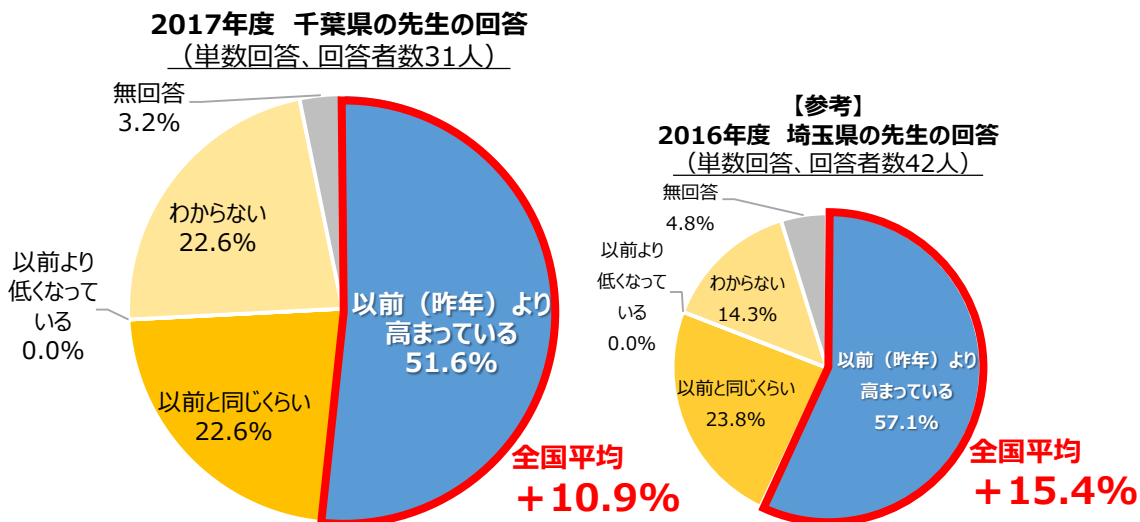


## 重大事件が発生した地域ほど 児童の危機意識の高まりが見られる

本アンケートの調査期間直前の2017年3月末、千葉県松戸市の小学3年生が登校中に連れ去られ殺害される事件が発生し、大きく報じられました。この事件が起きた千葉県に勤務する先生の回答結果を抽出すると、「児童の危機意識が高まっている」と回答した先生の割合が、全国の集計値と比べて10.9%多くなっていました。

昨年のアンケートでは、誘拐・監禁されていた女子中学生が2年ぶりに保護されたという事件が起きた埼玉県でも同様の回答傾向が見られました。重大事件の発生は、周辺地域の児童の危機意識に変化を及ぼすと言えます。

**Q. 以前（昨年）と比較して、児童たち自身の「安全・安心」への危機意識は高まっていると思いますか？**



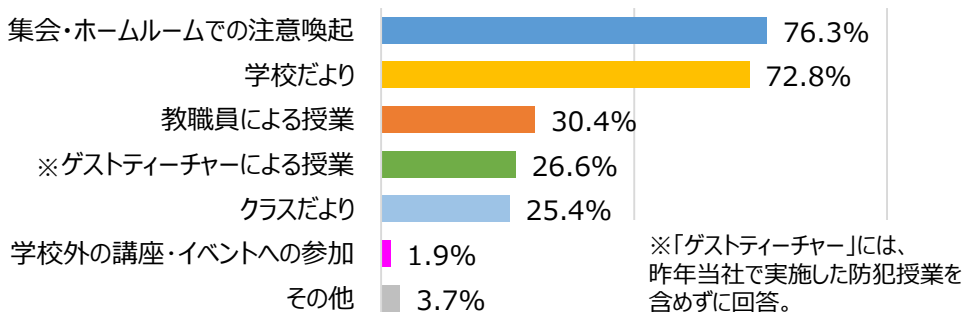
## 児童へ防犯指導をする機会は「集会・ホームルーム」が最多 防犯指導のための「授業」をしているクラスは約3割

児童の防犯意識を高めるための取り組みとして最も多かったのは、「集会・ホームルームでの注意喚起」で、7割以上のクラスで実施されていました。「学校だより」など紙媒体での注意喚起がこれに次いで多く、防犯に特化した「授業」の形式で指導を行っていたクラスは全体の3割程度という結果となりました。

警察庁は、子供への指導方法として、「参加・体験型の被害防止教育等により具体的な危険回避行動を繰り返し教え、習慣化させる」ことを推奨しています。家庭でも、言葉での注意喚起だけではなく、体験や考察を伴った実践的な教育を反復して行うように努めましょう。

### Q. 児童の防犯意識を高めるため、学校内でどのようなことをしていますか？

(複数回答、回答者数1,031人)



## 防犯ブザーの所持率は学年が上がるとともに減少

防犯ブザーの所持率について尋ねたところ、1年生では6割以上のクラスで全児童が防犯ブザーを持っていましたが、4年生以上に進級すると、所持率は4割を割り込んでおり、学年が上がるとともに所持率が下がる傾向が見られました。

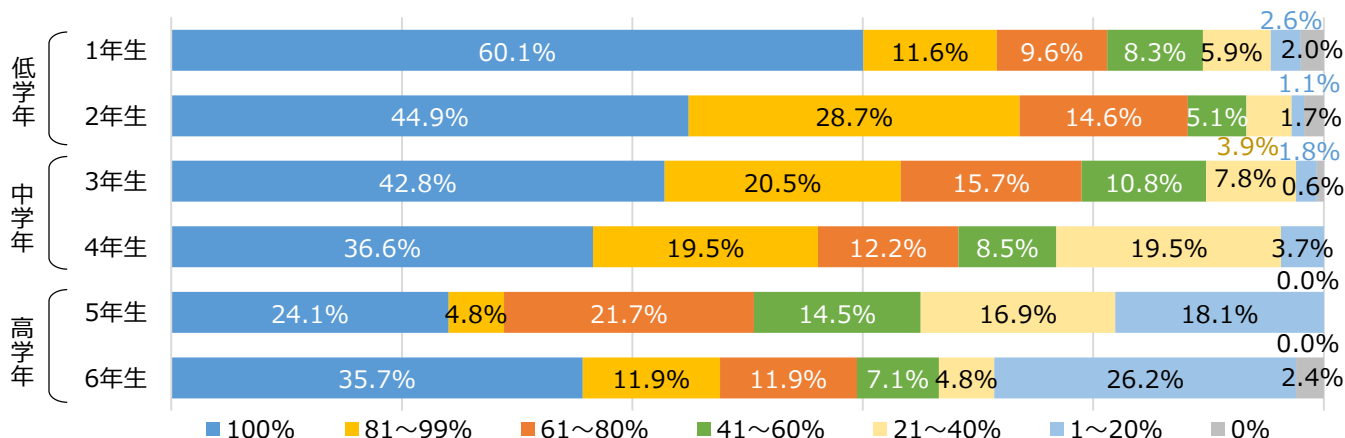
自治体によっては小学校入学時に、全員の児童に防犯ブザーを配布していますが、日常生活を送る中で風雨や衝撃をうけて壊れたり、紛失してしまうことも少なくないようです。

子供に危害を加えようとする人物は、ほかの大人に発見されることを嫌います。大きな音を出す防犯ブザーは、子供でも相手をけん制できる上に、被害抑止効果が期待できます。保護者は、防犯ブザーが壊れたり音が小さくなったりしていないかを定期的に確認するようにしましょう。

### Q. 現在担当しているクラスの児童の、防犯ブザー所持率はどれくらいですか？

(回答者数、1年生303人、2年生178人、3年生166人、4年生82人、5年生83人、6年生42人)

※担当学年不明者の回答および無回答は除外

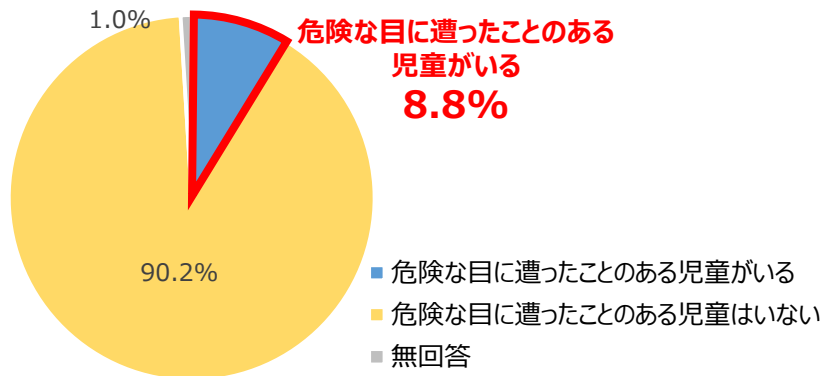


## クラスに「危険な目に遭ったことのある児童がいる」と回答した先生は約1割 被害を防ぐために、日頃から誘い文句に対応する訓練を！

現在担当しているクラスの中で、過去に声かけや連れ去り未遂など危険な目に遭った経験のある児童の有無について聞いたところ、「過去に危険な目に遭ったことのある児童がいる」と回答した先生は、約1割（8.8%）でした。

### Q. 現在担当しているクラスの中で、過去に声かけや連れ去りなど危険な目に遭った経験のある児童はいますか？

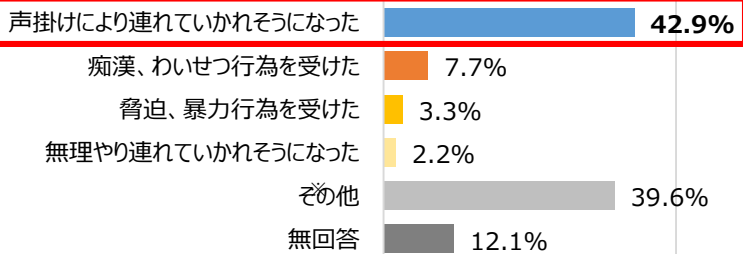
(単数回答、回答者数1,031人)



「危険な目に遭った児童がいる」と回答した先生のうち4割は、「声掛けにより連れていかれそうになった」（42.9%）児童がいると答えており、その手口は、子供が興味・関心を持つ物事で誘おうとする「興味系」（47.4%）や、子供の親切心につけ込む「親切系」（31.6%）の誘い文句が使われることが多かったことがわかりました。

### Q. 児童はどのような被害に遭いましたか？

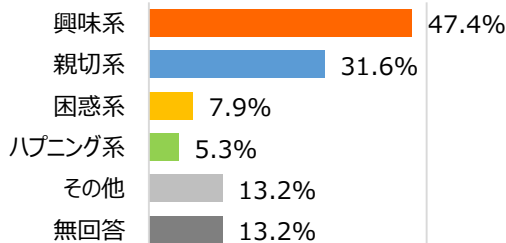
(複数回答、回答者数91人)



※「その他」の内訳・・・「声を掛けられた（連れ去り目的以外）」×16、「追いかけられた」×5、「写真を撮られた」×3、つかまれた×1

### Q. 児童はどのような誘い文句で声を掛けられましたか？

(複数回答、回答者数38人)



ALSOKでは、犯行の際によく使われるとされる誘い文句のパターンを、「興味系」、「ハプニング系」、「親切系」、「困惑系」の4つに分類し、注意を呼び掛けています。いざという時に対応できるよう、できるだけ多くの事例を児童に示して、自分だったらどうすればよいかを考えさせる訓練を、学校や家庭で日頃から行うようにしましょう。

**興味系** 「ペットを見せてあげる」、「タレントにならない？」など、子供の興味や好奇心をそそる手口

**親切系** 「迷子の犬を一緒に探して」、「駅まで案内して」など、子供の親切心につけこむ手口

**困惑系** 「雨が降ってきたので家まで送ってあげる」など、子供が困っているところにつけこむ手口

**ハプニング系** 「お母さんが病院に運ばれたから、一緒に行こう」など、子供を動揺させて平常心を奪う手口

# 児童への被害が最も多かったのは春から夏にかけて 夏休み中も外出時には防犯ブザーを携帯し、日没前に帰る約束を！

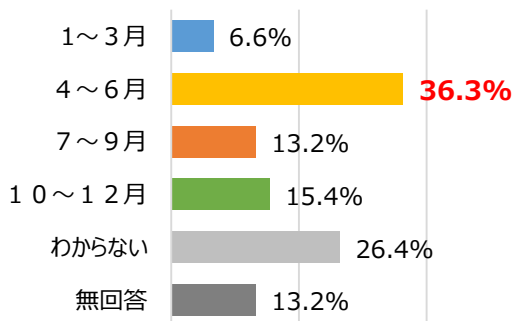
現在担当しているクラスに「危険な目に遭った経験のある児童がいる」と回答した先生91名に、被害に遭った時期を聞いたところ、新学期シーズンにあたる「4月から6月」（36.3%）が最も多い結果となりました。時間帯別にみると、「下校中」（49.5%）が最多で、「外出中（日没前）」（36.3%）もこれに次いで多くなっています。

夏休みは子供が自由になる時間が増えることに加え、日没時間も比較的遅いことから、外で過ごす時間が増えたり行動範囲が広がったりしがちです。「なるべく一人では行動しない」、「常に防犯ブザーを携帯する」、「日没前には帰宅する」、「危険な場所（※）」には近づかないといった約束を、この機会に改めてしておきましょう。

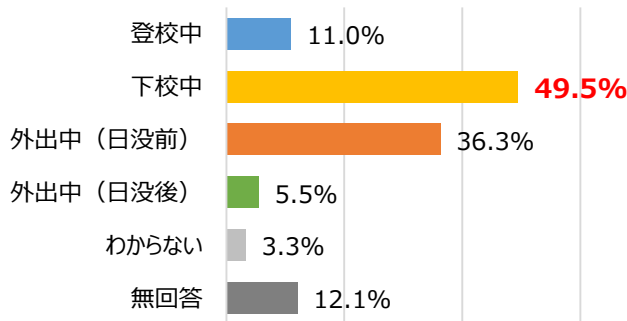
## ※ 危険な場所

人の視線が少なく死角が多い道路や公園など「まわりから見えにくい」かつ「誰もが入りやすい」場所は、怪しまれることなく標的に近づくことができ、犯行を目撃されるリスクも少ない、犯行者にとって都合のよい場所になります。日が落ちて暗くなるにつれて「見えにくい場所」は増えますので、子どもには日没前に帰宅するよう約束させましょう。また、駐車場は、車にひかれるリスクに加え、車内に潜んでいた犯行者に連れ込まれてしまう恐れもありますので、子供だけで近づかないように約束しておきましょう。

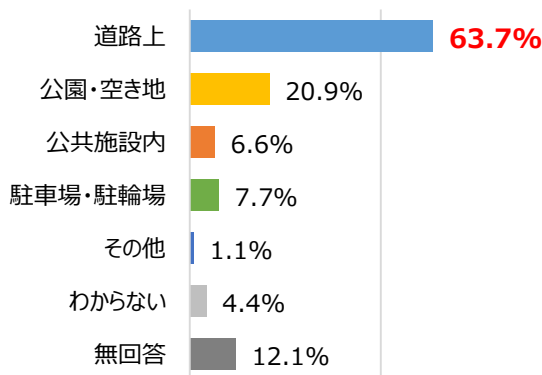
Q. 児童は、いつ頃被害に遭いましたか？  
（複数回答、回答者数91人）



Q. 児童は、どの時間帯に被害に遭いましたか？  
（複数回答、回答者数91人）



Q. 児童は、どこで被害に遭いましたか？  
（複数回答、回答者数91人）

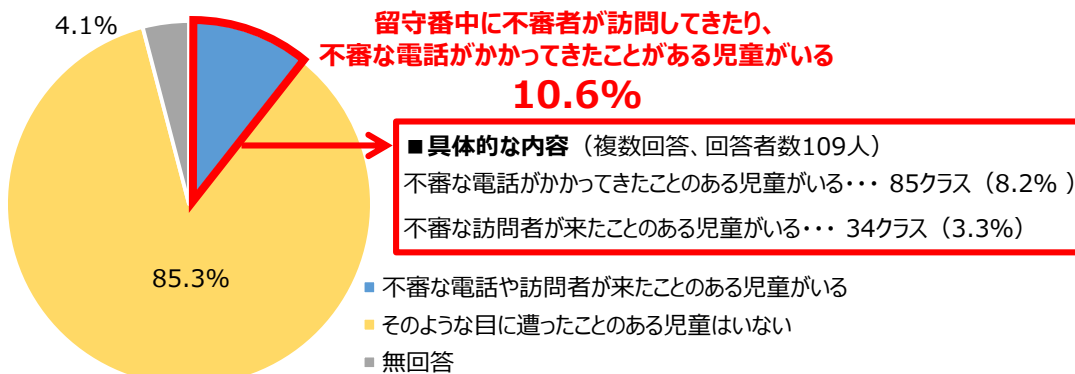


## 子供だけで留守番する機会が増える夏休み前には 留守番する前の約束「いいゆだな」など親子で確認を！

共働きの家庭や核家族化の進行により、留守番をする機会が増えたという児童も少なくないと思われます。過去に留守番中に不審者が訪問してきたり、不審な電話がかかってきた経験のある児童の有無を聞いたところ、10クラスに1クラスの割合で「留守番中に不審な電話や訪問者が来たことのある児童がいる」という回答がありました。

### Q. 現在担当しているクラスの中で、自宅で留守番中に不審者が訪問してきたり、不審な電話がかかってきたことのある児童はいますか

(単数回答、回答者数1,031人)



警察庁の統計によると、子供が被害に遭った略取・誘拐や強制わいせつの発生場所は、「路上」に次いで「住宅」が多くなっています。このような留守番中の子供を狙った犯罪を防ぐには、犯行者に「子供ひとりで留守番していることを悟らせない」ことが大切です。そのためには、学校や外出先から家に帰るとき、すなわち「留守番する前」から気をつけておくべき約束があります。ALSOKでは、この約束を「いいゆだな」という覚え言葉にして小学生に教えています。

### 外出先から帰って留守番をはじめる前の約束

- い** 家のカギを見せない (これから留守番をすることが悪い人にわかってしまうから)
- い** 家の周りをよく見る (悪い人が後ろにいたり隠れていた場合に、押し入りされることを防ぐため)
- ゆ** 郵便受けをチェック (郵便物があふれていると、留守だと思った空き巣に入られるかもしれないため)
- だ** 誰もいなくても「ただいま」と言う (家の中に誰がいるんだと思わせるため)
- な** 中に入ってすぐ戸締り (悪い人が家の中に入ってくるのを防ぐため)

留守番中の訪問者や電話には一切対応させないというのも一つの方法ですが、子供の成長段階や家の設備などの状況に応じて、ある程度の対応を子供に任せてみてもよいでしょう。気をつけるべきポイントは以下のとおりです。

### 不審な訪問者への対応のポイント

- ・ 絶対に玄関の扉を開けない
- ・ インターホン越しに話す
- ・ 一人で留守番していることを悟られないようにする

宅配業者や点検業者になりすまして押し入った例もあるので、絶対に玄関扉を開けてはいけないことを念入りに約束しておきましょう。「カメラ付きインターホン」や、ガードマンの駆けつけ要請ができる「ホームセキュリティ」といった防犯設備を導入しておくことも、犯行の予防や抑止に有効です。

### 不審な電話への対応のポイント

- ・ 一人であることを悟られないようにする
- ・ 個人情報を伝えない
- ・ 早めにいいいに電話を切る

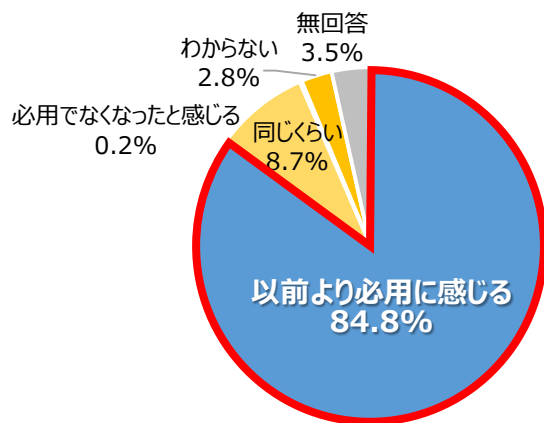
「親は今、手が離せません」、「後で連絡するので連絡先を教えてください」など、親の不在を悟られない対応をさせましょう。住所や名前など個人情報を尋ねられた場合は絶対に伝えないよう約束してください。うっかり話してしまわないよう、しつこい相手には「忙しいので失礼します」と言っ  
ていいいに電話を切るように教えておきましょう。

## 8割以上の先生が以前より教育の必要性を感じている インターネットのリスク教育は、年々低年齢化が進む

インターネットのリスクについて、以前（昨年）より教育が必要と感じるか聞いたところ、84.8%の先生が、「以前よりも必要性を感じる」と回答しました。担当するクラスで実際にインターネットのリスク教育をしているかどうかについては、前回同様に学年が大きいほど指導をしているというクラスの割合が高い傾向が見られました。一方、前回と比べ、低学年のうちから指導を行なっているクラスの割合が増えていました。

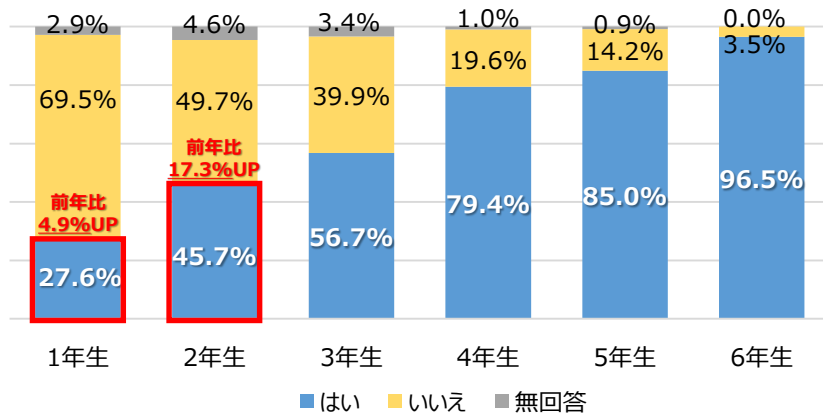
### Q. 以前（昨年）と比較して、現在のほうがインターネットに関するリスクについての教育が必要だと感じますか？

（複数回答、回答者数1,031人）



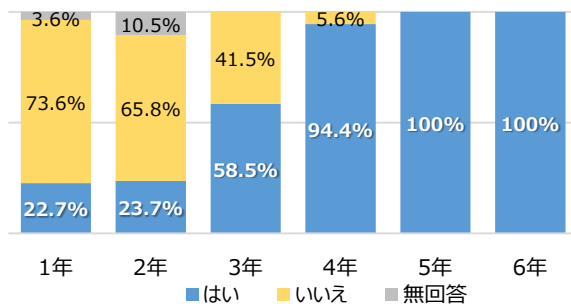
### Q. インターネットに関するリスクについて、担当しているクラスの児童に指導することはありますか？（予定含む）

（単数回答、回答者数：1年生348人、2年生197人、3年生208人、4年生102人、5年生113人、6年生57人）



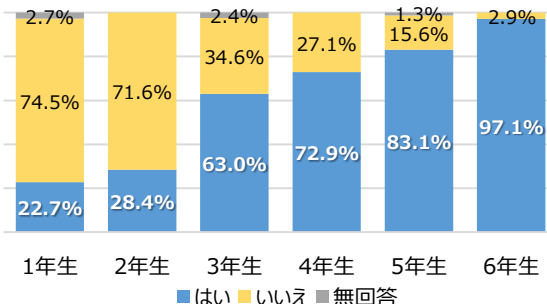
#### 参考：2016年（単数回答、回答者数304人）

※担当学年不明の45人は除外



#### 参考：2017年（単数回答、回答者数648人）

※担当学年不明の52人は除外

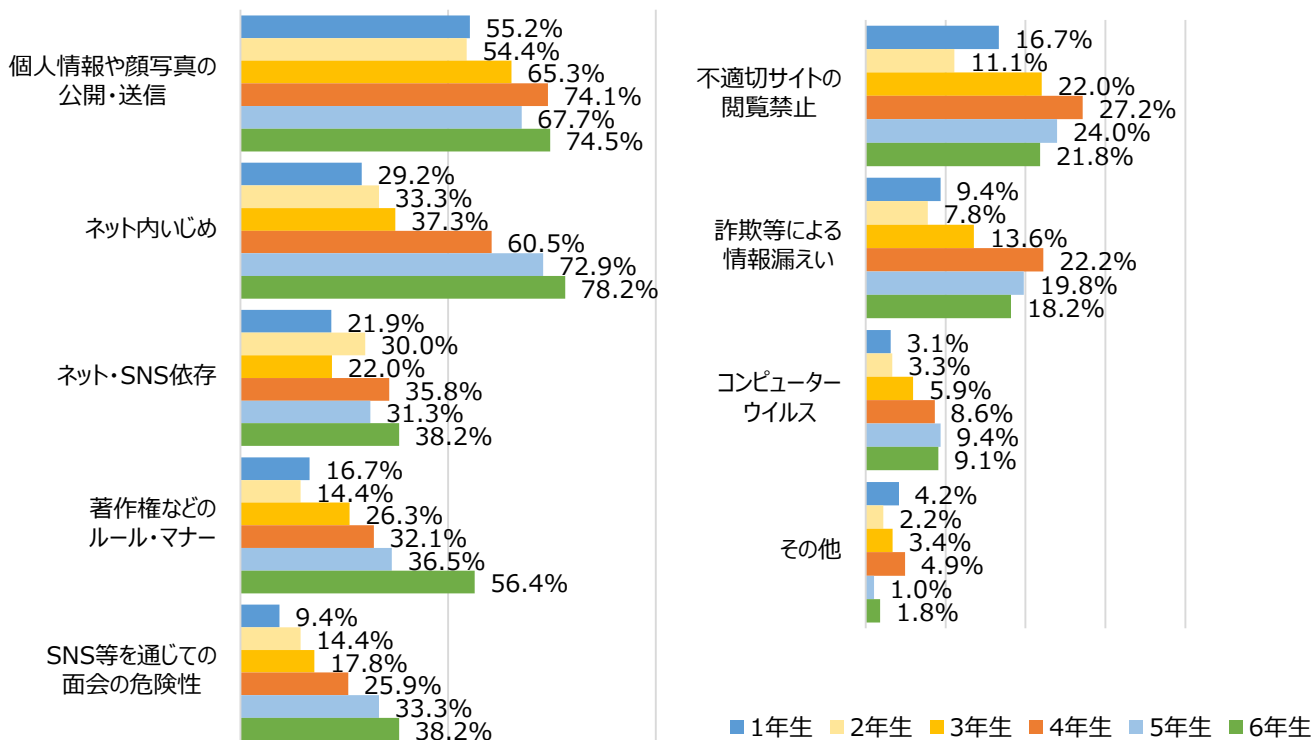


## 「個人情報や顔写真の公開」や「ネット内いじめ」など 「情報を発信する立場」としての注意点について指導するクラスが多い

担当しているクラスの児童にインターネットのリスクについて指導を行なっているという先生に、どのような内容の指導をしているのかを聞いたところ、「個人情報や顔写真の公開・送信」という回答が最も多くなりました。全般的に、「情報を受信・閲覧するとき」に比べ、「情報を発信するとき」の注意点について指導を行なっているクラスのほうが多い傾向が見てとれます。

### Q.どんな内容を指導しましたか。

(複数回答、回答者数：1年生96人、2年生90人、3年生118人、4年生81人、5年生96人、6年生55人)



### 夏休みのインターネット利用時の注意点

自由な時間が増える夏休みは、自由研究などの宿題をインターネットで調べたり、ネットゲームを楽しんだり、休み中に会えない友達とメールしたりと、インターネットを利用する機会が増えることが予想されます。

インターネットの世界は進展が早く、大人でもその変化についていくのは容易ではありません。まして子供は、インターネットを介したサービスの詳細な仕組みや、様々なところに潜む罠、メディアとしての影響力の大きさなどを知らずに利用している恐れがありますので、特に注意が必要です。

子供にひとりでインターネットを利用させる際には、フィルタリングなどの安全策を講じるとともに、次の3点についてしっかりと話し合ったうえで利用させるようにしましょう。

- ・**教える**：インターネットに潜むリスクや守るべきマナーについて教え、十分に理解させる
- ・**約束する**：利用時間・利用方法など、家庭内でのルールを決めておく
- ・**確認する**：ルールが守られているか定期的に確認し、子供の成長に応じてルールを変更する必要がある場合は更新する



## 【参考】出前授業「ALSOKあんしん教室」でのインターネット教育について

ALSOKが2004年から社会貢献活動として取り組んでいる小学生向け出前授業「ALSOKあんしん教室」では、2017年12月より、インターネットリテラシーがまだ十分に身に付いていない小学生が犯罪やトラブルに巻き込まれるのを防ぐための授業を、一部地域限定で行っています。

授業では、情報を発信する際に留意すべき5つのポイントをまとめた覚え言葉「か・き・く・け・こ」と、受信したときに警戒すべきメールやメッセージの6つの特徴を表した覚え言葉「あ・く・ま・が・で・た」を紹介しています。

## 情報を発信するときに確認する5つのポイント

**書き込む前に、「か・き・く・け・こ」を確認しよう**

か、き、く、け、こ、  
…送信!



- か** 顔がはっきりうつっていないか  
悪意を持った人に狙われるきっかけになる。また、肖像を勝手に使用されるリスクがある。
- き** 禁止されていることではないか  
著作権、肖像権等のルールについて知り、違反しないよう注意する。親と交わした約束を破るのもいけない。
- く** 暮らしている場所が知られてしまわないか  
住所はもちろん、自分の生活圏が知られてしまう情報を載せない。写真に写りこんだ背景にも注意。
- け** ケータイ番号など連絡先を教えても大丈夫か  
自分の連絡先を知らない人に教えたり、公開してはいけない。これらを騙し取ろうとする罠もあるので注意。
- こ** 困らせたり、迷惑がかかったりしないか  
書き込むことで、誰かを困らせたり、迷惑がかかってしまわないかよく考える。場合によっては炎上などのトラブルに発展する危険もある。

## 知らない人からのこんなメッセージ（メール）は要注意！

**「あ・く・ま・が・で・た」ときは、相手にしないで、おうちの人に相談しよう**

- あ** 会おうとってきた  
インターネット上で知り合った人と子供だけで会うことはとても危険。犯罪やトラブルにつながりやすい。
- く** クリックさせようとしてきた  
メッセージ内のURLや添付ファイルには、有害なものもある。安易にクリック（タップ）するのは危険。
- ま** 回すようにってきた  
チェーンメールなどは友達に回さない。悪質なURLやファイルが含まれていたら、自分が加害者になってしまう。
- が** 画像を送るようにってきた  
顔写真だけでなく、下着姿などを送信させられてしまう被害も。画像が他人の手に渡ると二度と消せなくなる。
- で** 電話やメールをさせようとしてきた  
代金支払い請求や、間違いメールを装った詐欺もあるので注意。連絡すると自分の連絡先が知られてしまう。
- た** タダであげるとってきた  
うまい話で興味を引き、個人情報や騙し取ったりトラブルに巻き込まれようとする罠に気をつける。